



## アーバンガーデンを 自分のための場所とするには？

### 課題

都市のランドスケープにはアーバンガーデンほどに自分好みにできる場所はない。アーバンガーデンはただ野菜や花を育てる場所ではない。コネクションを広げ、区画やガーデニング空間を自分の好きなように変えることで創造性を高められる場所となっている。ただし、この2つを簡単にこなせる人がある一方、なかなかできない人もいる。

**ガーデナーにとっての課題:** 多くの人は強い興味を持って、アロットメントガーデンの区画を借りるかガーデニングクラブに参加することで、ガーデニングの旅路を歩み始めることになる。しかし、時には熱意を保つのが大変になることもある。これは利益の損失やガーデンの放棄につながる問題となる。

**ガーデン組織にとっての課題:** ガーデン組織は、ガーデナーが共同の活動により深く関わり、ガーデンコミュニティの一員だと感じられるように、創造的で効果的な方法を模索する必要がある。しかし同時に、それぞれのガーデナーの個性やアイデンティティも尊重しなければならない。

このファクトシートは以下の課題について述べる:

- どうやってガーデンを自分のための場所にするか？
- どうやってガーデンで自分のアイデンティティを養うか？
- どうやってガーデンを愛着と帰属感の湧く場所とするか？



図2 - 自分好みにした区画。ウィーバース・スクエア・アロットメント・コミュニティガーデン(アイルランド、ダブリン)にて。写真: Mary Benson



図3 - 自分好みにした区画。ムーア・グリーン・アロットメント(イギリス、バーミンガム)にて。写真: Susan Noori

## ガーデナーへのメッセージ

- 自分の個性をガーデンで深めましょう。
- ガーデンをあなた自身の場所、家の外にある家にしましょう。または、せわしない都市生活からの逃げ場にしましょう。
- 自分のガーデンに意味を持たせましょう。
- 自分のガーデンを可視化しましょう。こういう見た目になってほしい、という理想像やあなたが望む美を表現しましょう。美はモチベーションと社会文化的な意欲によって変わるものです。
- 創造的になりましょう。
- 家族や友人が来て関わるようになるように、声掛けをしましょう。
- 他のガーデンとのつながりを広げましょう。

「エディブル・イーストサイドがくれるもののひとつは、空間…自分のための空間だと思う。完璧ではないが、素敵で、個人としての自分のための空間がある…これが、私がみんなからいつも聞くことです。」(イギリス・バーミンガムのエディブル・イーストサイドの区画利用者)

「これは私の場所だ。休んだり、自分の野菜や自分の花を育てるための場所だ。小さな天国なのだ」(ポーランド・ワルシャワの区画利用者)

「…ここに来ると、ブラジルの自然保護区でフィールドワークをしていたときのことを思い出す。自分の区画は農場というより、自然保護区みたいな感じなのだ」(イギリス・ウォルソール・アロットメントの区画利用者)

### やるべきこと:

ガーデンをあなたの家だと思って、自分好みに飾りましょう:

- ガーデンに名前をつけましょう。
- デコレーションのテーマとなる色として、好きな色を選びましょう。
- 好んで使ってみたい、自分にとって重要な植物やハーブを栽培しましょう。
- 装飾品や個人的な物、シンボルになるようなものをガーデンに置きましょう。ガーデンが自分のものだという感覚が生まれてきます。
- 座るのが作業の合間の楽しみになるような椅子をガーデンに置きましょう。
- 家にたくさんの部屋があるように、ガーデンもいくつかのセクションに分けてそれぞれが違うものになるようにしましょう。

### 覚えておくこと:

- ガーデンは柔軟に変化させることができます。
- 意欲を失わないようにしましょう。栽培や自己表現は時間もエネルギーも必要としますが、作業の成果が花開くまで種を見守るだけの価値はあります。
- ガーデンや収穫物を近くの区画にいる他のガーデナーに見せましょう。
- もしガーデニングの経験があったら、種や知識を皆さんとシェアしてあげましょう。
- 他のガーデナーとおしゃべりをして知り合うために、共用スペースを使いましょう。

## 関連情報

### 事例紹介

**ウォルソール・ロード・アロットメント**はイギリスの典型的なアロットメントガーデンである。

大規模で、多文化のアロットメントはノースバーミンガムの美しい景観の中にある。

区画利用者の異なる国籍や民族、文化的背景は非常に多様なものとなっています。伝統的な農作物だけでなく、区画利用者は世界中のあらゆるものを育てることができる。たとえば、カボチャとカラルーは西インド出身の人に人気で、イタリア出身の人はアーティチョークやククツツア(シチリアのヘビと呼ばれるズッキーニ)を栽培し、バングラディッシュ出身の人はカドウというウリ科植物(ヒョウタン)を竹の枠を使いながら賢く育てている。

どの区画も良くできていて、飾り付けもそれぞれ違ったようになされており、利用者の個性や文化的背景を反映している。

区画利用者が使うことのできるキッチン付きの休憩所があり、屋内外で利用者どうしの交流が促されるような椅子もある。運営委員会は毎年品評会や植物を売るチャリティイベントを開いたり、地域のスーパークitchenに作物を寄付したり、夏祭りをしたり、いろいろな取り組みをしている。情報がたくさんあり、定期的に更新されているウェブサイトは以下から:

<http://growit.btck.co.uk>



図4 - 夏のガーデンパーティー。クイーン・ボナ・コミュニティガーデン(ポーランド、ワルシャワ、ヤスドー地区) 写真: Beata J. Gawryszewska



図5 - 情報をシェアするための掲示板。エディブル・イーストサイド(イギリス、バーミンガム)にて。写真: Susan Noori

## 政策立案者へのメッセージ

- ガーデナーの交流を促しましょう。
- ガーデナーが共同活動できるように、共用スペースを發展させましょう。
- 人々の文化的な違いにオープンになりましょう。
- 人々が出会って交流できるような、社交的なイベントを催しましょう。
- 人を惹きつけるツールをつくりましょう。たとえば、訪問者や他から来たガーデナーに珍しい木や草花のような特別な素材を見せられるような、解説やネームタグがあります。
- みんな自分の場所を持ちたいものです。自分の好みを表現できるように応援しましょう。

### やるべきこと:

- 共用空間または建物を提供し、ガーデナー同士の交流が進むようにしましょう。
- ガーデナーにイベント案内や、ガーデニングの助言やその他のお知らせを伝えるため、ソーシャルメディアを使いましょう。しかし、みんながソーシャルメディアを使えるわけではなく、「古き良き」掲示板を使うことも忘れないようにしましょう。
- 共有の壁面は楽しくみんなで創造的になるためのスペースとして有効です。
- 料理できるエリアをつくりましょう。
- ガーデナーに、収穫物やガーデン、彼らの好きなどころの写真を撮るように頼みましょう。共用スペースに飾ったり、ソーシャルメディアで紹介したりできます。

## 関連情報

### 参考文献

- Bell, S., Fox-Kämper, R., Keshavarz, N., Benson, M., Caputo, S., Noori S., Voigt, A.,** 2016. Urban Allotment Gardens in Europe. New York: Routledge
- Noori, S. and Benson, M.** 2016. Urban allotment Garden: A case for Place-making. In S. Bell, et al. Urban Allotment Gardens in Europe. New York: Routledge
- Crouch, D.** 2001. The Art of Allotments: Culture and Cultivation. London: Five Leaves Publications.
- Lucy Chamberlain,** The art of allotments. The Guardian, 26th August 2009. <http://www.theguardian.com/lifeandstyle/gardening-blog/2009/aug/26/gardens>
- Cresswell, T.** 2004. Place: a short introduction. Oxford: Blackwell.
- The Dublin Guide to Community Gardening, 2013. <http://dublincommunitygrowers.ie/wp-content/uploads/2011/03/FINAL-City-Guide-to-Community-Gardening.pdf>



図6 - 「木立のなかで何かを育てるのが好きなの…それで材料をミックスして…あんまり普通じゃないようなものをね…もっと素敵に見えるし、もっと自然に見えるから…森や野原のように」(ウォルソール・ロード・アロットメントの区画利用者) 写真: Susan Noori (公開許可取得済)



図7 - 交流イベントとみんなで行う活動のための共用空間。ウォルソール・ロード・アロットメントにて。写真: Beata J. Gawryszewska

著者

Mary Benson<sup>1</sup>, National University of Ireland, Ireland

Beata J. Gawryszewska, Warsaw University of Life Sciences, Poland

Susan Noori, Birmingham City University, United Kingdom

<sup>1</sup>corresponding author: mary.benson@nuim.ie

翻訳:新保 奈穂美 (Naomi Shimpo), 筑波大学, shimpo@nenv.jp

インフォシリーズ | 1版 言語:日本語 (JAPANESE) | オンライン発行日:2016年12月1日

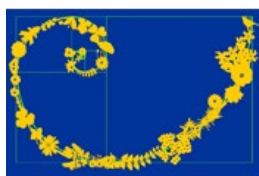


COST (European Cooperation in Science and Technology、欧州科学技術研究協力機構)は  
欧州全域の政府間で形成されたフレームワークです。  
その使命は科学的および技術的な発展により新たな概念や産物をもたらすこと、  
それによって欧州における研究および革新の可能性を高めることです。

[www.cost.eu](http://www.cost.eu)



COSTはEUの研究・イノベーション枠組み計画「Horizon2020」に支援されています。



謝辞

このファクトシートはCOSTが支援する「COST Action TU1201 Urban Allotment Garden in European Cities」  
の成果にもとづいて作成されました。

[www.urbanallotments.eu](http://www.urbanallotments.eu)



「欧州のアーバングーデン」に参加しましょう:

<https://www.facebook.com/groups/825421310826607/>